

イラストとシーンで
おぼえる



@古文単語 337

準拠

コピー用テスト全25回

第1回	HOP 75基本語編(1)		P. 26	〜	P. 40
第2回	HOP 75基本語編(2)		P. 41	〜	P. 53
第3回	HOP 75基本語編(3)		P. 54	〜	P. 67
第4回	HOP 75基本語編(4)		P. 68	〜	P. 77
第5回	HOP 75基本語編(5)		P. 78	〜	P. 90
第6回	SCENE 恋愛と結婚編		P. 92	〜	P. 101
第7回	SCENE 風流編		P. 104	〜	P. 112
第8回	STEP 85必修語編(1)		P. 114	〜	P. 125
第9回	STEP 85必修語編(2)		P. 126	〜	P. 137
第10回	STEP 85必修語編(3)		P. 138	〜	P. 149
第11回	STEP 85必修語編(4)		P. 150	〜	P. 159
第12回	STEP 85必修語編(5)		P. 160	〜	P. 169
第13回	STEP 85必修語編(6)		P. 170	〜	P. 178
第14回	SCENE 出家と家族編		P. 182	〜	P. 192
第15回	JUMP 90重要語編(1)		P. 194	〜	P. 207
第16回	JUMP 90重要語編(2)		P. 208	〜	P. 219
第17回	JUMP 90重要語編(3)		P. 220	〜	P. 229
第18回	JUMP 90重要語編(4)		P. 230	〜	P. 239
第19回	JUMP 90重要語編(5)		P. 240	〜	P. 249
第20回	JUMP 90重要語編(6)		P. 250	〜	P. 260
第21回	SCENE 病気・死・涙編		P. 262	〜	P. 272
第22回	敬語マスト32編(1)		P. 274	〜	P. 283
第23回	敬語マスト32編(2)		P. 284	〜	P. 295
第24回	敬語マスト32編(3)		P. 296	〜	P. 305
第25回	敬語マスト32編(4) + SCENE 宮中と身分社会編		P. 306	〜	P. 319

第1回

イラストシーンで
おぼえる
@古文単語 337
HOP75基本語編(1) (P.26～P.40)

名前

年

組

番

/100点

① 次の各文の傍線部の訳にあてはまる語句をそれぞれ選びなさい。(9点×8)

1 あやしき下臈^{げらふ}なれども、聖人の戒めにななへり。(徒然草)

「 ① 下臈ではあるが、(彼の言葉は) 聖人の教えに合致している。
② 不思議な ③ おかしい ④ 身分が低い ⑤ 不審な

2 よき若き人ども参り集まりて、めでたくあらまほしき御有様なり。(栄花物語)

(女院の元には) すぐれた若い女房たちが参上し集まって、すばらしく 「 ① 理想的な ② づらやましい ③ 新しい ④ あらたまつた
⑤ 様子である。

3 取りがたき物を、かくあさましく持て来ることを、ねたく思ふ。(竹取物語)

取ることがむずかしい物を、このように 「 ① ほどに (ちゃんと) 持つて来ることを、いまいましく思う。
② 見苦しい ③ 浅はかな ④ 意地の悪い ⑤ 意外な

4 ありがたきもの 舅^{しゅうと}にほめらるる婿^{むこ}。(枕草子)

「 ① もの 舅にはめられる婿。
② めったにない ③ つまらない ④ 感謝すべき ⑤ 難しい

5 あないみじ。犬を蔵人^{くらうど}二人して打ちたまふ。死ぬべし。(枕草子)

まあ 「 ① 犬を蔵人が二人がかりで殴つていらつしやる。死ぬにちがいない。
② くだらない ③ すばらしい ④ ひどい ⑤ 立派だ

6 おぼつかなきもの 十二年^{じふにねん}の山籠^{やまこも}りの法師の女親^{めおや}。(枕草子)

「 ① もの 十二年間比叡山^{ひえいざん}に籠つて修行する僧の母親 (の気持ち)。
② 忘れられない ③ 気がかりな ④ 待ち遠しい ⑤ もどかしい

7 命長きは憂^{うれ}き事にこそありけれ。(栄花物語)

寿命が長いということとは 「 ① ことであるよ。
② ③ ④ ⑤

8 それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。(竹取物語)

それ (筒の中) をよく見ると、三寸ぐらいの人が、たいそう 「 ① 座つていた。
② ③ ④ ⑤

9 なびゆかむさまゆかしき人かな、と目とまりたまふ。(源氏物語)

大人になつていく様子を 「 ① 人だなあ、と (光源氏は若紫に) 注目なさる。
② ③ ④ ⑤

10 ただ一二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。(枕草子)

(夏の夜に、螢が、たくさんではなく) ただ一二つなど、かすかに光つて飛んでいくのも
「 ① ② ③ ④ ⑤

10 ① ② ③ ④ ⑤

「 ① ② ③ ④ ⑤

第2回

イラストレーションで
おぼえる **@古文単語 337**
HOP75基本語編(2) (P.41～P.53)

名前

年

組

番

/100点

① 次の各文の傍線部の訳にあてはまる語句をそれぞれ選びなさい。(9点×8)

1 すべて、いとも知らぬ道の物語したる、かたはらいたく、聞きにくし。(徒然草)

何事でも、たいして知らない方面の話をしているのは、(はたで聞いていて)「聞き苦しいものだ。」

① あさましく ② 気の毒で ③ おかしく ④ 見苦しく

2 よろしうよみたると思ふ歌を、人のもとにやりたるに、返しせぬ。(枕草子)

「詠んだと思う和歌を、人の所へ送つてやったところ、返歌をよこさないの(は興ざめた)。」

① 悪くなく ② すばらしく ③ かわいく ④ 趣深く

3 方もあきぬれば、かくつたである所に久しうおはせんも便なしとて帰る。(源氏物語)

(尼君は)方塞がりも解けたので、このようにいやな所に長くいらつしやるのも「と帰る。」

① 不都合だ ② かわいそつだ ③ 気が引ける ④ 興味がな

4 はづかしき人の、歌の本末問ひたるに、ふとおぼえたる、われながらうれし。(枕草子)

「人が、和歌の上の句や下の句を尋ねたときに、ふつと(それが)思い出されたのは、われながらうれしい。」

① 恥知らずな ② 人見知りな ③ 立派な ④ 上流階級の

5 折節のうつりかはるこそ、ものごとにあはれなれ。(徒然草)

季節の移り変わるこそ、何事につけても「ものであるよ。」

① しみじみと趣深い ② ずっと眺めていたい ③ いかにふびんな ④ すっきり晴れやかな

6 講師待つほどに、我も人もひさしくつれづれなるに、…(大鏡)

(菩提講の)講師を待つ間、だれもかれも長い間「いると、…」

① つらく悲しんで ② することがなく手持ちぶさたで ③ 連れ立って ④ 行列に連なつて

7 秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる(古今和歌集)

秋がやってきたと、目にははっきりと見えないけれど、風の音によって、「しまったことだ。」

① はっと気づいて ② びつくりして ③ 目覚めて ④ 悲しくなつて

8 親たちかしづきたまふこと限りなし。(堤中納言物語)

親たちが(娘の姫君を)「なさることはこの上もない。」

① お仕えさせ ② 扱いづらく思い ③ 大切に養育し ④ 心からひれ伏し

② 次の各文の傍線部の訳を答えなさい。(14点×2)

9 人の語り出でたる歌物語の、歌のわろきこそ本意なけれ。(徒然草)

人の語り出した歌物語の、和歌が良くないのは「。」。

10 一人はいやしき男のまつしき、一人はあてなる男もたりけり。(伊勢物語)

一人は身分が低い男で貧しい人を、もう一人は「男を夫としていた。」

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

第3回

イラストレーションで
おぼえる **古文単語** 337
HOP75基本語編(3) (P.54～P.67)

名前

年

組

番

/100点

① 次の各文の傍線部の訳にあてはまる語句をそれぞれ選びなさい。(9点×8)

1 「願ひをかなふことのうれしさ」とのたまひて、御衣ぬぎてかつけたまうつ。(竹取物語)

「願ひをかなえてくれるのはほんとうにうれしい」とおっしゃって、お召し物を脱いで」「なきました。

① ほうびとしていただき ② ほうびとして与え ③ 頭からかぶり ④ 頭からかぶせ

2 「一条室町に鬼あり」とののいりあへり。(徒然草)

「一条室町に鬼がいる」と(人々は)」「あっている。

① 大げさにうわさし ② 強く非難し ③ ひどくおそれ ④ 大声で騒ぎ

3 夜は主の仏を念じたてまつる。(蜻蛉日記)

夜はご本尊の御仏を」「申しあげる。

① 祈り ② 呪い ③ 信じ ④ 見つめ

4 たよりごとに物も絶えず得させたり。(土佐日記)

「」があるたびごとに(御礼の)品物も常に送っていた。

① 依頼 ② 連絡 ③ 問題 ④ 機会

5 夜もすがらまどろまず文作り明かしたまふ。(源氏物語)

「晩中少しも眠らず」「を作って夜をお明かしになる。

① 手紙 ② 漢詩 ③ 和歌 ④ 書物

6 唐葵、日の影にしたがひて傾くこそ草木といふべくもあらぬ心なれ。(枕草子)

唐葵(とうき)は、日の「」にしたがって傾くのが草木では言い表しようのない(ほどすばらしい)心である。

① 方向 ② 影 ③ 光 ④ 明るさ

7 角髪結ひたまへるつらつき、顔のほひ、さま変へたまはむこと惜しげなり。(源氏物語)

(少年の髪型である)角髪に結いなさるお顔だちや、そのお顔の「」は、(成人の姿に)容姿を変えなさるのが惜

しいような様子である。

① つやのある美しさ ② 香の匂い ③ 整った顔立ち ④ かわいらしい様子

8 うちつけに、深からぬ心のほどと見たまふらむ、ことわりなれど、年ごろ思ひわたる心の中も聞こえ
知らせむとてなむ。(源氏物語)

突然で、深くはない心の様子とお思いになるだろう、もっともだが、「」思い続ける(この私の)胸の内も申しあ

げ知らせようと(思つて)。

① 若い頃から ② 長年 ③ 今年いっぱい ④ このごろ

② 次の各文の傍線部の訳を答えなさい。(14点×2)

9 夕月夜のをかしきほどに出だし立てさせたまひて、やがてながめおはします。(源氏物語)

夕方の月の趣深いころに(使者を)出発させなさって、(帝は)そのまま」「(月

を眺めて)いらつしやる。

10 無期の後に、「えい」といらへたりければ、僧たち笑ふ事限りなし。(宇治拾遺物語)

長い間経ったあとに、「はい」と」「たので、僧たちはこの上なく笑った。

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

第4回

イラストレーションで
おぼえる @古文単語 337
HOP75基本語編(4) (P.68～P.77)

名前

年

組

番

/100点

① 次の各文の傍線部の訳にあてはまる語句をそれぞれ選びなさい。(9点×8)

1 六日のつとめてより雨はじまりて、三四日降る。(蜻蛉日記)

六日の「 」から雨が降り始めて、三、四日降る。

① 夜遅く ② 食事時 ③ 早朝 ④ 仏道修行の時間

2 やうやうしろくなりゆく山ぎは、すこしあかりて、…(枕草子)

「 」白くなっていく山に接するあたりの空が、少し明るくなつて、…

① 次第に ② さまざまに ③ やつとのこと ④ 一気に

3 薬も食はず。やがて起きもあがらず、病み臥せり。(竹取物語)

薬も飲まない。「 」起き上がらないで、病床に臥せている。

① いつものように ② まもなく ③ しばらく ④ そのまま

4 かかるほどに、堀河殿、御心地いとど重りて、…(栄花物語)

こうしているうちに、堀河殿は、病状が「 」重くなって、…

① たいへん ② なかなか ③ 以前と変わらず ④ いっそ

5 あなおそろしや。などかうはのたまはすらむ。(蜻蛉日記)

まあ恐ろしいこと。「 」

① どうしてこのようにおっしゃるのでしょうか ② だれがこのようにおっしゃるのですか

③ なんとでもこのようにおっしゃりたいのだろうか ④ できるだけこのようにおっしゃりたいものだ

6 少将をばいつしか、兵共うちかこんで、守護し奉る。(平家物語)

少将を「 」武士たちが囲んで、お守り申しあげる。

① いつでも ② いつの間にか ③ 一つの日に ④ そのうち

7 吹くからに秋の草木のしほればむべ山風を嵐といふらむ(古今和歌集)

風が吹くやいなや、秋の草木がしおれるので、「 」山から吹きおろす風を嵐(＝強い風)というのだろう

① なるほど ② 無理やりに ③ そういうことで ④ 必然的に

8 夜もすがら、雨やまず。今朝も。(土佐日記)

「 」雨がやまなかった。今朝も(同じだ)。

① 昨夜も ② 一日中 ③ 一晩中 ④ 夜明け前は

② 次の各文の傍線部の訳を答えなさい。(14点×2)

9 世の中に物語といふもののおんなるを、いかで見ばやと思ひつつ、…

世間には物語というものと聞くと、…「 」見たいと思ひながら、…(更級日記)

10 二人ふたり臥して、かたみに君の御心ばへどもを語る。(落窪物語)

二人は横になって、「 」主人のお氣立てなどを語り合う。

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

第5回

イラストレーションで
おぼえる @古文単語 337
HOP75基本語編(5) (p.78～p.90)

名前

年

組

番

/100点

① 次の各文の傍線部の訳にあてはまる語句をそれぞれ選びなさい。(9点×8)

1 しりにたちておひゆけど、えおひつかで、清水のある所にふしにけり。(伊勢物語)

(女は男の) あとについて追いかけていくが、追いつくことが「 」「 清水のある所で倒れてしまった。

① 苦しいので ② できなくて ③ ないままで ④ むずかしくて

2 月な見たまひぞ。これを見たまへば、物思す気色はあるぞ。(竹取物語)

月を「 」「 」。これを「 」「 」。思い悩みなざる様子があふ。

① なるのは少しにしない ② なるのはなぜですか ③ なりたいのですか ④ ならないでください

3 我にもあらずあらぬ世にのみがへりたるやうに、しばしはおぼえたまふ。(源氏物語)

(光源氏は) 茫然として「 」「 世界に生き返つたやうに、しばらくの間はお感じになる。

① 別の ② あつてはならない ③ 知らない ④ あるはずのない

4 あなかも、人に聞かすな。いとをかしげなる猫なり。飼はむ。(更級日記)

「 」「 人に聞かせないで。たいへんかわいらしい様子の猫だ。飼おう。

① ねえ、お願い ② あつ、仲間よ ③ しつ、静かに ④ おや、待つて

5 此よし申されたりければ、ききもあへず、やがて都へはせのぼり、…(平家物語)

(謀反の) 事の次第を申し上げなかつたところ、(清盛は)「 」「 すぐに都へ馳せ上つて、…

① 聞き終わつてから ② 聞きたくなくて ③ 聞くとすぐに ④ 聞き分けもなく

6 さるべき契りこそはおはしましけめ。(源氏物語)

「 」「 前世からの宿縁があらになつたのであろう。

① そつはいつても ② 去つてしまつという ③ 避けられない ④ そつなるはずの

7 聞もまたをかし。有明はた言ふもおろかなり。(枕草子)

聞もまた趣深い。有明(月のころ)は(これも)また「 」「 (ほど趣深い)。

① 今更言つのは恥ずかしい ② 言つまでもない ③ おそれ多くて言えない ④ 言つと愚かに見える

8 愛敬ありて言葉多からぬこそ、飽かず向はまほしけれ。(徒然草)

魅力があつて言葉の多くない人こそ、「 」「 向きあいたいものである。

① 長いあいだにわたつて ② しみじみと趣深く ③ いつまでも飽きることがなく ④ 心を明かすことなく

② 次の各文の傍線部の訳を答えなさい。(14点×2)

9 大人になつたまひて後は、ありしやうに、御簾の内にも入れたまはず、…

元服ながつてからは、(帝も)「 」「 ように、(光源氏を) 御簾の中にもお入れにならず、…

10 日暮るるほど、例の集りぬ。(竹取物語)

日が暮れるころに、(求婚者たちは)「 」「 集まつた。

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

第6回

イラストシーンで
おぼえる
SCENE @古文単語 337
恋愛と結婚編 (P.92～P.101)

名前

年

組

番

/100点

1 次の各文の傍線部の訳にあてはまる語句をそれぞれ選びなさい。(9点×8)

1 清盛の聲になして、平家をかたらはばや…(平治物語)

(息子を) 清盛の婿にして、「」 「たいものだ」

① 平家と姻戚になり ② 平家を出し抜き ③ 平家の姫君を手に入れ ④ 平家を説得して味方に付け

2 あふことのたえてしなくはなかなか人にをも身をも恨みざらまし(拾遺和歌集)

契りを結ぶことが全くなかったならば、かえって、「」 「のことも自分自身のことも、こんなに恨んだりしないであらうになあ。

① 世間の人 ② あの人 ③ あなた ④ 人の心

3 タつ方、ここには忍びたれど、これはわりなくもやつしたまはず、烏帽子、直衣の姿いとあらまほしくきよげにて、…(源氏物語)

夕方、(薫は) こちらに忍んできたけれど、こちらは(匂宮ほど) はなはだしく「」 「烏帽子、直衣の姿はたいへん好ましく美しく、…

① 落ちぶれた姿になさらず ② やせ細りなさらず ③ 御僧衣になさらず ④ 目立たない格好になさらず

4 三年ばかりは心ざしあるさまに通ひたまひしを…(源氏物語)

(頭中将は) 三年間ほどは愛情の深い様子で「」 「なさったが…

① 女のもとに夫として通い ② 女と恋文を通わせ ③ 女が通ってくるのを待ち ④ 女と心を通わせ

5 名にしおはばいざ言問はむみやこどりわが思ふ人はありやなしやと(伊勢物語)

(「みやこ」という名を) 名前として持っているならばたずねよう、みやこどりよ、「」 「は、(都で無事にして) いるのか、いないのかと。

① 私の心配する人 ② 私の愛する人 ③ 私を思い悩ませる人 ④ 私が考えている人

6 かの四の君をも、なほ離れ離れにうち通ひつつ…(源氏物語)

あの(右大臣の) 四の君にも、やはり「」 「通いながら…

① 途絶えがちに ② 愛情はないまま ③ 家が遠いながらも ④ 嫌われていると知っても

7 いまめかしき方にならず御心移ろひんかし…(源氏物語)

(浮気な宮は) 新しい女君のほうへきつと「」 「ことだろうよ…

① 引越す決意をなさる ② お心変わりする ③ 変わらない御愛情を持つ ④ 新鮮な魅力を感じなさる

8 いと思はずにのみぞ、世はありける。(蜻蛉日記)

たいそう思いがけない様子ばかり、(私たちの)「」 「はあつたことだ。

① 帝の政治 ② 景気の悪い生活 ③ 夫婦の仲 ④ 意外な前世

2 次の各文の傍線部の訳を答えなさい。(14点×2)

9 ゆめ、こと男したまふな。われにあひたまへ。(大和物語)

決して、ほかの男と結婚なさるな。私と「」 「ください。

10 さやうならむ人をこそ見め、似る人なくもおはしけるかな、…(源氏物語)

そのような人をこそ「」 「たいものだ、似ている人もいない(ほど、またとなくすぐれて) いらつしやることよ、…

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

第7回

イラストシーンで
おぼえる
@古文単語 337
SCENE 風流編 (p.104～p.112)

名前

年

組

番

/100点

① 次の各文の傍線部の訳にあてはまる語句をそれぞれ選びなさい。(9点×8)

1 いくさの陣へ笛もつ人はよもあらじ。上臈は猶もやさしかりけり。(平家物語)

戦陣に笛を持つ人はまさかないだろう。身分の高い人はやはり「ものだ。」

選抜版 ① 一生懸命な ② 優美な ③ 心優しい ④ 繊細な

2 誠に彼社には、内侍とて優なる女どもおほかりけり。(平家物語)

本当にあの社には、内侍といって「女たちが多くいた。」

選抜版 ① 優美な ② あでやかな ③ 派手な ④ 今風の

3 すきすきしきものから、奥深くわづらはしき御心にぞおはしける。(栄花物語)

「ものの、心の中は奥深くやっかいな性分でいらつしやつた。」

選抜版 ① 人に好かれやすい ② 女好きである ③ 外面がいい ④ 風流である

4 尚侍こそは、うづうづじくゆゑゆゑしき方は人にまさりたまへれ。(源氏物語)

尚侍こそ、物慣れていて「という点では人よりすぐれていらつしやいます。」

選抜版 ① 風情がある ② 理由がある ③ 高貴な生まれである ④ 堂々としている

5 姫君は、らうらうじく、深く重りかに見えたまふ。(源氏物語)

姫君は、「思慮深く重々しくお見えになる。」

選抜版 ① 気苦労が多く ② かわいらしく ③ 気品があり ④ 知恵があり

6 おほやけも心細う思され、世の人も心あるかぎりは嘆きけり。(源氏物語)

帝も心細くお思いになり、世間の人たちも「ものすべてが(大臣の引退を)嘆いた。」

選抜版 ① 趣味の良い ② 優美である ③ 分別がある ④ 支持する

7 笛忘れて来にけり。取て賜へ。ただ今、内裏の御遊ひに参るなり。(落窪物語)

笛を忘れて来にしまった。(この手紙を届けた使者に)取つてお与えなさい。(私は)今から、宮中の「に参上するのだ。」

選抜版 ① 皇后主催の歌合 ② 詩歌管弦の遊び ③ 天皇のお出まし ④ 笛の腕比べ

8 若君、拍子とりて、豊浦の寺の西なるやとつち出でたまへる声、…(夜の寝覚)

若君は、拍子をとって、「豊浦の寺の西なるや」と「なざっている声が、…」

選抜版 ① 物思いに沈み ② 和歌を創作し ③ 口ずさみ ④ 演説し

② 次の各文の傍線部の訳を答えなさい。(14点×2)

9 なまめかしきもの ほそやかに清げなる君達の直衣姿。(枕草子)

「もの ほっそりきれいに見える貴公子の直衣姿。」

10 父が弾く手、一つ残さず習ひとりつ。(うつほ物語)

父が弾く「を、一つも残さず習得した。」

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

① 次の各文の傍線部の訳にあてはまる語句をそれぞれ選びなさい。(9点×8)

1 十二ばかりにおはしませば、まだいと若ういはけなう、をかしげなり。(落窪物語)

(姫宮は) 十二歳ほどでいらつしやるので、まだたいへん若く」「、かわいらしい様子である。

① 幼く ② 聞きわけがなく ③ 愛らしく ④ 背が低く

2 人の上言ふを腹立つ人こそいとわりなけれ。(枕草子)

他人の身の上(のうわさ話)を言うのを(聞いて) 腹を立てる人はいたいへん」。

① つまらない ② 役に立たない ③ 道理に合わない ④ 気がきかない

3 いとつれなく何とも思ひたらぬさまにて、たゆめ過ぐすもまたをかし。(枕草子)

(勝負ごとに負けた人が) たいへん」「 なんとと思っていない様子で、(相手を) 油断させて過ぐすのもまた面白い。

① 気楽に ② 平気で ③ 薄情で ④ 冷酷に

4 髪いと長くうるはしく、さがりばなどめでたき人。(枕草子)

髪がたいへん長くて」「、垂れ下がった端などがすばらしい人。

① 整っていて ② 華やかで ③ 女性らしく ④ つややかで

5 家なれば住み候ふに、おはしますがかたじけなく、所狭く候ふなり。(宇治拾遺物語)

我が家ですので住んでおりますが、(帝が) いらつしやるのが畏れ多く、「」「いびきます。

① 窮屈で ② 光栄で ③ つらめしく ④ ありがたく

6 恥づかしき御ありさまにて対面せんもいとつましく思したり。(源氏物語)

(姫君は) きまりが悪いお身なりで(光源氏と) 顔を合わせるようなこともたいへん」「 と思っていらいしやる。

① 隠しようがない ② 貧乏くさい ③ 気がひける ④ 情けない

7 御門の御位はいともかしこ。(徒然草)

帝の御位はほんとうに「。」

① 慕わしい ② すぐれている ③ ありがたい ④ おそれ多い

8 この酒をひとりたうべんがさうさうしければ、申しつるなり。(徒然草)

この酒を一人で飲むのが「」ので、(こちらへ来るように) お願い申しあげたのだ。

① 風情がない ② ふさわしくない ③ 落ち着かない ④ もの足りない

② 次の各文の傍線部の訳を答えなさい。(14点×2)

9 いとはつらく見ゆれど、志はせむとす。(土佐日記)

(隣の人) たいへん「」 「と思われるけれど、(お礼の) 贈り物はしようとする。

10 いと寒きに、火などいそぎおこして、炭持てわたるも、いとつきつきし。

(枕草子)

たいへん寒い(朝)に、火などを急いでおこして、炭火を運んでいくのも、(冬の朝には) たいへん「」。

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

第9回

イラストレーションで
おぼえる
STEP 85 必修語編(2) (P.126～P.137)

名前

年

組

番

/100点

① 次の各文の傍線部の訳にあてはまる語句をそれぞれ選びなさい。(9点×8)

1 いとすさまじうもののしと聞こしめす。(源氏物語)

(帝は) たいへん (この場にそぐわず) 興ざめで 「とお聞きになる。

① もののしい ② 不愉快だ ③ つまらない ④ 無礼だ

2 藤の花は、しなひ長く、色濃く咲きたる、いとめでたし。(枕草子)

藤の花は、(花房が) しなやかに垂れ長く、色が濃く咲いているのが、たいへん 「。

① 美しい ② 好ましい ③ あつぱれだ ④ すばらしい

3 熊谷あまりにいとほしくて、いづくに刀をたつべしともおぼえず、… (平家物語)

熊谷は (首を取ろうと取り押さえた敦盛が) あまりに 「どこに刀を刺したらよいかわからなくて、…

① かわいそりで ② 幼くて ③ かわいらしくて ④ やせていて

4 蝶はとらふれば、手にきりつきて、いとむつかしきものぞかし。(堤中納言物語)

蝶は捕まえると、手に粉がついて、たいへん 「ものですよ。

① 気難しい ② 美しい ③ 気味悪い ④ すばらしい

5 人のもとなる重べも、いみじき色ふしと思ひたる、ことわりなり。(枕草子)

女房に仕えている童女も、(五節の準備で華やぐ内裏の様子を) 非常に晴れがましいことと思っているのは、 「。

① けなげだ ② 不可解だ ③ 辞退したからだ ④ もつともだ

6 むかし、男、陸奥の国にずるにゆきいたりにけり。(伊勢物語)

むかし、ある男が、奥州に 「行き着いたのだった。

① 徒歩で ② わけもなく ③ しみじみと ④ いつのまにか

7 あからさまにまかでたるほど、二日ばかりありても雪は降るものか。(紫式部日記)

「 (私が実家に) 退出している間、二日ほどたつてよりにもよって雪が降るではないか。

① 珍しく ② ほんのちよつと ③ 急な用事で ④ たまたま

8 もの思ふ人の魂はげにあくがるものになむありける。(源氏物語)

物思いする人の魂はなるほど 「ものであったのだ。

① 体からさまよい出る ② 心から懂れる ③ いつものつわの空な ④ 体に悪影響な

② 次の各文の傍線部の訳を答えなさい。(14点×2)

9 はやはや源氏の宮の御内裏参りにとて、やんごとなき人々多く参り集まりたまふなり。(狭衣物語)

早々と源氏の宮が入内するというので、 「人々がたくさん伺い集まりなさいます。

① 参り集まりに ② 参り集まりに ③ 参り集まりに ④ 参り集まりに

10 木造りの地蔵を田の中の水におし浸して、ねんごろに洗ひけり。(徒然草)

(ある男が) 木造の地蔵を田んぼの中の水に押し浸して、 「洗っていた。

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

① 次の各文の傍線部の訳にあてはまる語句をそれぞれ選びなさい。(9点×8)

1 鵲あうむはいとあはれなり。人の言ことふらむことをまねまねぶらむよ。(枕草子)

鵲あうむはとても趣がある。人が言うようなことを「 」
「そうだよ。」

① 返事する ② ばかにする ③ 繰り返す ④ 口真似する

2 いとよく大臣おとどの君に似たてまつりたまへりと人々もめできこえけり。(源氏物語)

(弟宮は) たいへんよく大臣の君(＝光源氏)に似申しあげていらつしやると人々も「 」
「申しあげた。」

① 賞賛し ② 慕い ③ うわさし ④ 同意し

3 まして、「こもとの浅き事は、何事なりともあきらめ申さん。」(徒然草)

言うまでもなく、身近な所の卑近なことは、どんなことでも「 」申しあげよう。

① 詳しく教え ② 晴れ晴れと思い ③ 断念し ④ 明らかにし

4 友と思ふべき人だになきに。(狭衣物語)

(私が死んでも) 友として「 」はずの人さえいないのに。

① 涙を我慢する ② 懐かしく思い出す ③ 極楽往生を願う ④ なんぞろに用う

5 いとわりなき雨に障りてわびはべり。(蜻蛉日記)

たいへん並々でない雨に「 」(お伺いできず) つかう思います。

① 引き止められて ② 挫折して ③ ぬれてしまって ④ 妨げられて

6 まことは敦賀へ率て奉るなり。(宇治拾遺物語)

本当は敦賀に「 」のだ。

① お引き取り申しあげる ② お座り申しあげる ③ お連れ申しあげる ④ お入り申しあげる

7 その才ざいかしこしと聞きこえたる学生がくしやう十人を召す。(源氏物語)

その才能がすぐれていると「 」学生十人をお呼びになる。

① 知っている ② お聞きになっている ③ 評判になっている ④ 信頼している

8 子安貝こやすがひを、ふと握り持たれば、うれしくおぼゆるなり。(竹取物語)

子安貝を、さつと握って持っているの、うれしく「 」のだ。

① 思っていた ② 思う ③ 思いになる ④ 思われる

② 次の各文の傍線部の訳を答えなさい。(14点×2)

9 百人ばかり天人具して、のぼりぬ。(竹取物語)

(かぐや姫は) 百人ほどの天人を「 」。(月の世界へ) 昇ってしまった。

10 吾妻人こそ、言ひつる事は頼たのまれる、都の人は、ことうけのみよくて、実まじなし。(徒然草)

東国の人は、言ったことに「 」(ことができるが、都の人は、口請け合っただけよくて、誠実さが無い。)

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

① 次の各文の傍線部の訳にあてはまる語句をそれぞれ選びなさい。(9点×8)

1 豊明は今日ぞかしと、京思ひやりたまふ。(源氏物語)

豊明の節会は今日であつたなど、京に「」なさる。

① お気遣いを ② お心を悩ませ ③ 思いをさせ ④ 使者を遣わし

2 隠れにゐて、「こはいかなることぞ」とも言ひやらす笑ふ。(落窪物語)

人目につかない場所に座って、「これはどうしたことだ」とも「」笑う。

① 最後まで言い切れずに ② 相手に言ってあげないで

③ 最初から言い出さずに ④ 言ってよこすことなく

3 人々参ればのたまひさしつ。(松浦宮物語)

人々が参上したので(帝は)「」。

① おっしゃろうとした ② おっしゃりかけてやめた ③ おっしゃり始めた ④ おっしゃり続けた

4 夜明けはてぬれば、御方々帰り渡りたまひぬ。(源氏物語)

夜が「」ので、御方々(＝光源氏の姫君方)は帰って行かれた。

① 完全に明けてしまった ② 明けようとしていた ③ 明けるのが早くなった ④ 明けては都合が悪い

5 あさばらけに霧立ちわたりけり。(天和物語)

明け方に霧が「」立ちこめていた。

① つつすらと ② しばらく ③ 濃く ④ 一面に

6 むすめを思ひかけて、みそかに通ひありきけり。(堤中納言物語)

娘に恋をして、こつそり「」いた。

① 通うのがばれて ② 徒歩で通って ③ 通い続けて ④ 通っては飽きて

7 そこはかたちよかめり、心こそえよからざりけれ。(うつは物語)

「」は顔だちはよいようだが、心こそはよくできないのだなあ。

① 殿 ② 彼女 ③ 中流階級の人 ④ あなた

8 人数にこそ侍らねど、志ばかりは、まさる人侍らじと思ふ。(堤中納言物語)

人の数にも入りませんが、「」だけは、まさる人はおりますまいと思う。

① 愛情 ② 寄付金 ③ 将来の目標 ④ 信頼

② 次の各文の傍線部の訳を答えなさい。(14点×2)

9 あさましや、誰か、あなたの門は開けつる。(蜻蛉日記)

意外だ、誰が、「」の門を開けたのだ。

10 昔の契りありけるによりてなむ、この世界にはまつで来たりける。(竹取物語)

前世の「」があったことよって、(私は月の世界から)この世界に参上していったのだ。

9

8

7

6

5

4

3

2

1

10

① 次の各文の傍線部の訳にあてはまる語句をそれぞれ選びなさい。(9点×8)

1 されば、盗人をいましめ、側事をのみ罪せんよりは、…(徒然草)
それだから、盗人をしばり、「」をだけ罰するようなことよりは、…

選択肢
① 片方 ② 首謀者 ③ 詳しいこと ④ 間違い

2 その時おのづから事のたよりありて、津の国の今の京に至れり。(方丈記)

その時「」 物事のついであつて、摂津の国の今の京(＝福原)に行き着いた。

選択肢
① ありがたいことに ② 間の悪いことに ③ たまたま ④ いつものように

3 抜かんとするに、大方抜かれず。(徒然草)

抜こうとするが、「」 抜くことができない。

選択肢
① ほとんど ② たいして ③ 大人数でも ④ まったく

4 いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり。(源氏物語)

「」 高貴な家柄ではない方で、特に(帝の)寵愛を受けなされる(お方が)あった。

選択肢
① それほど ② 決して ③ 今は ④ 少しも

5 そこにゐて、ものたまへど、をさをさ答へもせず。(うつほ物語)

(若小君は) そこに座つて、いろいろとおっしゃるが、(女は)「」。

選択肢
① ほとんど返事もしない ② 少しも返事をしない ③ 返事をしたくなさそうだ ④ 年上で返事をしない

6 あひ戦はむとすとも、かの国の人来なば、猛き心つかふ人も、よもあらじ。(竹取物語)

戦い合おうとしても、あの国の人が来たならば、勇猛心をふるう人も、「」。

選択肢
① あつてほしいものだ ② 少ししかないだろう ③ 決してあつてはならない ④ まさかありはしないだろう

7 空いと黒う曇り厚く見えながら、さすがに日は、けざやかにさし出でたるに、…(枕草子)

空はたいへん暗く曇つて(雲が)厚く見えながら、「」 日は、はつきりと射し出ているときに、…

選択肢
① 思つていたよりは ② そうはいつてもやはり ③ 言つほどでもなく ④ いくらなんでも

8 心づきなき事あらん折は、なかなかそのよしをも言ひてん。(徒然草)

気に入らない事があるようなときは、「」 「その理由を言つてしまおう。

選択肢
① 簡単に ② せめて ③ かえつて ④ 少しくらいは

② 次の各文の傍線部の訳を答えなさい。(14点×2)

9 こころの国々を過ぎぬるに、駿河の清見が関と、逢坂の関とばかりはなかり

けり。(更級日記)

「」 「」の国々を通り過ぎてきたが、駿河の清見が関と、逢坂の関ほど(心ひかれた)所はなかった。

10 今様は無下にいやくこそなりゆくめれ。(徒然草)

現代風な物事は「」 「」下品になっていくようだ。

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

① 次の各文の傍線部の訳にあてはまる語句をそれぞれ選びなさい。(9点×8)

1 何をもちて、とかく申すべき。(竹取物語)

何をもちて「申しあげることができようか。」

① あのように ② あれこれ ③ とにかくも ④ いずれかと

2 さしたる事なんいはんと思ふ。(宇治拾遺物語)

「事を言おうと思う。」

① たいしたことのない ② 差し迫った ③ それをした ④ 大事な

3 酒宴ことさめて、いかがはせんと惑ひけり。(徒然草)

酒宴も興が冷めて、「と途方にくれた。」

① どうしようか ② どうして帰ろう ③ いくらだろう ④ どうしてだろうか

4 えさらぬ事のみいとどかさなりて、事の尽くるかぎりもなく、…(徒然草)

「事ばかりがいつそう重なって、用事がなくなる際限もなく、…」

① 忘れられない ② そうではない ③ 立ち去ることができない ④ 避けることができない

5 この老法師の女たちには、けしうはあらずおはしまさふな。(大鏡)

この老いた法師の娘として、「いらつしやるだろう。」

① 常識外れで ② 卑しくはなくて ③ 悪くはなくて ④ たいへん優れて

6 月さしくもり、木の下をぐらきに「御格子まゐりなばや」…(紫式部日記)

月が雲に隠れて、木の下陰がほの暗いので、「しまいたい」…

① 御格子をお下げて ② 御格子を持参して ③ 御格子をお上げて ④ 御格子にお参りして

7 問ひたまへば「いさ、何ごととも知らず」と答へたまへば、…(住吉物語)

(少将が)お聞きになると、(姫君は)「何のこととも知らない」と答えなされたので、…

① では ② さあ ③ ほう ④ いいえ

8 頭もえもいはず恐ろしげなる者どもなり。(宇治拾遺物語)

(化け物たちは)頭髮も「おそろしい様子の者たちである。」

① 口もきけず ② なんとも言えないほど ③ 整えないでいる ④ はなはだしく

② 次の各文の傍線部の訳を答えなさい。(14点×2)

9 女君、聞くに胸つぶれて、さらにせむかたなし。(落窪物語)

女君は、(それを)聞いて驚きでひどく胸騒ぎがして、まったく「」。

10 音に聞きつる御ありさまを見たてまつりしる、げに「そめでたかりけれ」。

(源氏物語)

「た(光源氏の)の様子を見申しあげた、なるほどすばらしかったよ。」

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

第14回

イラストシーンで
おぼえる
SCENE @古文単語 337
出家と家族編 (P.182～P.192)

名前

年

組

番

/100点

① 次の各文の傍線部の訳にあてはまる語句をそれぞれ選びなさい。(9点×8)

1 上は、宮のうせたまひける折、さま変へたまひにけり。(堤中納言物語)

(姫君の) 母上は、父宮がお亡くなりになったときに、「」 なさった。

① 喪服に着替え ② 出家し ③ 様子が変わり ④ 引越す

2 かの阿闍梨の住む寺の堂に移ろひたまひて、七日のほど行ひたまふ。(源氏物語)

例の阿闍梨の住む寺の御堂にお移りになって、七日の間「」 なさる。

① 儀式を行い ② 寺を治め ③ 仏道修行し ④ 教典を講義し

3 われ法師になしたまへ。年ごろの本意なり。(栄花物語)

私を法師にしないさい。長年の「」である。

① 念願 ② 野望 ③ 報い ④ 本気

4 「尼になりなむ」と思ひけれど、この児のいとなしうおほえければ、ほだしにて、… (落窪物語)

「尼になってしまおう」と思ったが、この子がたいへんいとおしいと思われたので、(これが出家の「」であって…

① 障害 ② 同情 ③ 束縛 ④ 執着

5 御弟にこそものしたまへど、ねびまさりてぞ見えたまひける。(源氏物語)

(宮は光源氏の) 御「」でいらっしやいますが、大人びた感じにお見えてした。

① 兄 ② 恋人 ③ 夫 ④ 弟

6 皇后宮の御せうとの若君とおはしましつる、御元服せさせたまふ。(栄花物語)

皇后宮の御「」の若君という名でいらっしやった方が、御元服の式をなさる。

① 姉妹 ② 弟妹 ③ 兄姉 ④ 兄弟

7 よしいえといひける宰相のはらから、大和の掾といひてありけり。(大和物語)

よいえといった宰相の「」で、大和の掾といっている人がいた。

① 同郷の人 ② 兄弟 ③ 家族 ④ 親戚

8 いかばかり身にしみぬらん七タのつまつ宵の天の川風 (新古今和歌集)

どれほど身にしてみているだろう。織女星が、「」を待つ宵の、天の川を吹き渡る風は。

① 夫 ② 妻 ③ 星 ④ きつかけ

② 次の各文の傍線部の訳を答えなさい。(14点×2)

9 花山寺におはしまし着きて、御髪おろさせたまひて後、… (大鏡)

(帝は) 花山寺に到着になって、「」「」なされた後に、…

10 枕をなぐべしいもせも、雲ぬのよそにぞなりはつる。(平家物語)

枕を並べ(て寝て)いた「」「」も、空のかなた(のように遠い場所)に離れてしま

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

① 次の各文の傍線部の訳にあてはまる語句をそれぞれ選びなさい。(9点×8)

1 世に語り伝ふる事、まことはあいなきにや、多くは皆虚言なり。(徒然草)

世間で語り伝える事は、真実では「」のだらうか、たいていはすべて嘘である。

① 無意味な ② つじつまが合わない ③ つまらない ④ 愛がない

2 このほどにと立ち込みたる物見車どもも、かち人どもも、こちたきまで多かり。(狭衣物語)

この(行幸の)折にと(沿道に)立ち込んだ見物の車なども、徒歩の人々も、「」くらい多かつた。

① ③こちらに來たい ② 煩わしい ③ 大げさな ④ 驚く

3 遊びをもし、見すべき事ありて、呼びにやりたる人の来ぬ、いとくちをし。(枕草子)

詩歌管弦の遊びをしたり、見せようと思うことがあつたりして、呼びに行かせた人が来ないのは、たいへん「」。

① 情けない ② 悔しい ③ 残念だ ④ 後悔する

4 影すさまじき 暁月夜に、雪はやうやう降り積む。(源氏物語)

光が「」夜明け前の月夜に、雪は次第に降り積もっていく。

① 弱々しい ② まぶしい ③ ものすごい ④ 寒々しい

5 のたまひもしるく、十六夜の月をかしきほどにおはしたり。(源氏物語)

(光源氏は) おつしやつた「」、十六夜の月が趣深いころにいらつしやつた。

① まさにその後 ② 事を知つて ③ まさにその通り ④ 事も忘れて

6 声高になのたまひぞ。屋の上にをる人どもの聞くに、いとまさなし。(竹取物語)

大きな声でおつしやらないでください。屋根の上にいる人たちが聞くと、たいへん「」。

① よくない ② 恥ずかしい ③ 予想外だ ④ 思いがけない

7 人々の、花、蝶やとめつるこそ、はかなくあやしけれ。(堤中納言物語)

人々が、花よ、蝶よと賞賛するのこそ、「」奇妙なことだ。

① おほろげで ② つまらなくて ③ 幼稚で ④ 情けなくて

8 はしたなきもの こと人を呼ぶに、わがぞとさし出でたる。(枕草子)

「」もの ほかの人を呼んでいるのに、自分だと出てきたとき。

① きまりが悪い ② 失礼な ③ 行儀が悪い ④ 思慮を欠く

② 次の各文の傍線部の訳を答えなさい。(14点×2)

9 さがなき 童どもの仕りける、奇怪に候ふことなり。(徒然草)

「」子どもたちがいたした、けしからんことばいいます。

10 あやしうなつかしき人のありさまにもあるかな。(源氏物語)

(姫君は) 不思議と「」人の様子であるなあ。

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

① 次の各文の傍線部の訳にあてはまる語句をそれぞれ選びなさい。(9点×8)

1 かく世の中のことをも思ほし棄てたるやうになりゆくは、いとたいだいしきわざなり。(源氏物語)

このように(治めるべき)世の中のことをも見捨てなさったようになっていくのは、たいへん」「おこないである。

① 怠情な ② 仰々しい ③ 身の程知らずの ④ もつてのほかの

2 わが心ながらもおほけなく、いかで立ち出でにしかと、…(枕草子)

自分の気持ち(で決めたこと)だけれども」「どうして(宮仕えに)出てきてしまったのかと、…

① 身の程知らずに ② 情けなく ③ 大げさでなく ④ 不都合で

3 暗うなるまに、雨いとあやにくに、頭さし出づべくもあらず。(落窪物語)

暗くなるにつれて、雨がたいへん」「(降ってきて)、頭をちよつと出すこともできない。

① 容赦なく ② ひどく ③ 都合が悪く ④ 憎らしいほど

4 これよりあながちなる心は、よも見せたてまつらじ。(源氏物語)

今後は」「気持ちには、決してお見せ申しあげますまい。

① 無理矢理な ② 熱心な ③ 中途半端な ④ 不真面目な

5 時々物見などに出でて見るに、この君ただならず見ゆる君なり。(栄花物語)

時々物見などに外に出て見ると、このお方は」「思われるお方だ。

① 何もしないと ② 並々でなく ③ 一癖あると ④ 心が曲がっていると

6 七月十五日の月にいでゐて、せちに物思へる気色なり。(竹取物語)

七月十五日の月に(かぐや姫は縁側に)出て座り、「物思いにふけている様子である。

① 優雅に ② せっかちに ③ 必死に ④ ひたすら

7 近衛の大将、ものよりことにめでたし。(枕草子)

近衛の大将は、普通の人より」「すばらしい。

① 風変わりで ② 格別に ③ 芸事に ④ 一途で

8 さは、三条院の御末は絶えねと思し召し、おきてさせたまふか。(大鏡)

それでは、(父君の)三条院の子孫は絶えてしまえとお思いになって、「なさるのか。

① 処罰し ② 置いて ③ 起こし ④ 取り決め

② 次の各文の傍線部の訳を答えなさい。(14点×2)

9 かくいひて、ながめつつ来るあひだに、ゆくりなく風吹きて、…(土佐日記)

こう言つて、物思いにふけりながら来るあひだに、「風が吹いて、…

10 殿に侍りしまでは、女をよそに見たまへき。(うつは物語)

(いちらの)御殿におりましたときまでは、女を「(思つて)見ておりました。

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

① 次の各文の傍線部の訳にあてはまる語句をそれぞれ選びなさい。(9点×8)

1 庭の儀を奉^{おぎやう}行する人、乾^{かわ}き砂^{すなご}子を設^{こしつ}くるは、故実なりとぞ。(徒然草)

庭の整備を奉仕する人が、乾いた砂を「」のは、昔からのしきたりであるという。

① 準備する ② 散らす ③ まとめる ④ 隅に置く

2 いたう困^{こづ}じたまひにければ、心にもあらずちまどろみたまふ。(源氏物語)

たいそうお「」になったので、思わずうとうとお眠りになる。

① 悩み ② 困り ③ 疲れ ④ 嘆き

3 女君泣き沈^{しづ}みたまへる、ためらひてゐざり出^いでたまへる、…(源氏物語)

女君は(部屋^{むろ}の奥^{おく})で泣き沈みなさっているのを、「」いざり出なさっている、…

① ためらいながら ② 仕方なく ③ いやがりながらも ④ 気を静めて

4 面映^{おもは}ゆくや思ひけん、舞ひかねてぞやすらひける。(義経記)

きまりが悪く思ったのだろうか、(静^{しず}は)舞うことができなくて「」。

① 休んでいた ② ためらった ③ 寝てしまった ④ 少し笑った

5 習はせたまふほども、あやにくがりすまひたまへど、…(大鏡)

(舞^まを)お習わせになっている間も、だだをこねて「」なさるけれど、…

① 居直り ② 乱暴し ③ 抵抗し ④ 申し開き

6 をりをり音^{おと}なひはべるに、にくからず答^{こた}へはべれば、…(夜の寝覚)

その時ごとに「」ますと、好感の持てるように返答しますので、…

① 手紙で連絡し ② 楽器を演奏し ③ 声を上げ ④ 音を立て

7 心やすくうち棄^すてたまにもてなしたる品^{しな}なきことなり。(源氏物語)

(女^をが)気安く投げやりな様子に「」のは下品なことだ。

① もてなしている ② 喜んでいる ③ はしやいでいる ④ ふるまっている

8 つかみ砕^{くだ}き散らさむことあたはずして、あつかひて、遙^{はる}かにもとのすみかの比良^{ひら}の山^{やま}に持^もて行^ゆきぬ。(今昔物語集)

つかみ砕くことができず、「」遠く元のすみかの比良山にまで持っていた。

① 世話をして ② 困って ③ もてあまして ④ 扱って

② 次の各文の傍線部の訳を答えなさい。(14点×2)

9 男^{をのこ}もならはぬは、いとも心細^こし。(土佐日記)

男も(船旅に)「」ない者は、たいへん心細い。

10 酔^よひにか^ゑこちて苦^{くる}いげにもてなして、明^あくるも知らず顔^{かほ}なり。(源氏物語)

(夕霧は)酔いの「」苦しそうにふるまって、(夜が)明けるのも知らないふりをしてこる。

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

① 次の各文の傍線部の訳にあてはまる語句をそれぞれ選びなさい。(9点×8)

1 女いといたう待ちわびにけり。(大和物語)

女は(男を)たいへんひどく「しまった。

① 待ち疲れて ② 待ち続けて ③ 待たせて ④ 待ちかねて

2 日比のあらましの次第、直に承らん。(平家物語)

このころの「」の状況を、直接にお聞きしよう。

① 現実 ② 計画 ③ 嵐 ④ 利益

3 かくてすなはち来にけり。そのかみ女は塗籠に入りけり。(大和物語)

こうして(男は)すぐに(女のとこに)やって来た。「」女は小部屋の中に入ってしまった。

① その時 ② すぐさま ③ その昔 ④ ようやく

4 この道に心ざし深かりしことは、道因入道並びなき者なり。(無名抄)

この「」に気持ちが深かったことでは、道因入道は比類ない者である。

① 道理 ② 歌道 ③ 技術 ④ 街道

5 姿、用意などなべてならず見ゆ。(源氏物語)

(お付きの少女たちの)姿、「」などは並み一通りでなく見える。

① 服装 ② 持ち物 ③ 性格 ④ 気遣い

6 中将、「なにがしは、痴者の物語をせむ」とて、…(源氏物語)

中将は、「」は、ばか者の話をしよう」と言って、…

① あの人 ② だれそれ ③ 私 ④ 匿名の某

7 男、血の涙を流せども、とどむるよしなし。(伊勢物語)

男は、血の涙を流したが、(女を)引きとどめる「」がない。

① 手段 ② 資金 ③ 口実 ④ 経緯

8 あらぬよしなき者の名のりして来たるも、かへすがへすもすまじといふはおろかなり。(枕草子)

そう(待っていた)ではない「」者が名乗って来たのも、つくづく興ざめだと言うまでもない。

① 無慈悲な ② 理由のない ③ 風情がない ④ 無関係な

② 次の各文の傍線部の訳を答えなさい。(14点×2)

9 おのおの、古里に、心細げなる言伝てすべかめり。(源氏物語)

それぞれ、「」に、心細そうな伝言をするにちがいないようだ。

10 僧ども念仏のひまに物語するを聞けば、…(蜻蛉日記)

僧たちが念仏の「」に雑談しているのを聞くと、…

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

① 次の各文の傍線部の訳にあてはまる語句をそれぞれ選びなさい。(9点×8)

1 徳をつかんと思はば、すべからく、まづその心づかひを修行すべし。(徒然草)

富を身につけようと思うなら、「」「」ますその心構えを修行すべきだ。

① 当然 ② すべては ③ みんなで ④ たぶん

2 構へて参り給へ。(宇治拾遺物語)

「」参上なさいませ。

① 安心して ② 覚悟して ③ せひ ④ なるべく

3 ゆめゆめ偽りにてははべらず。(住吉物語)

「」嘘ではいけません。

① まったく ② 夢のような ③ たぶん ④ 誓って

4 かやうにて世の中の過ちはするぞかしと思ひて、やをら上りてのぞきたまふ。(源氏物語)

このようにして世の中の間違いは起こるのだよと思つて、(光源氏は)「」上つておのぞきになる。

① ばつと ② さつと ③ こつそり ④ そつと

5 立て籠めたる所の戸、すなはちただあきにあきぬ。(竹取物語)

閉めきつてある場所の戸が、「」ただもうすっかり開いてしまった。

① そのまま ② すぐに ③ すべて ④ 自然に

6 かばかりのなかに何かはと、人の心はなほうたておぼゆれ。(徒然草)

こんな時にどうして(迷信を言うのか)と、人の心がやはり「」思われる。

① 気味悪く ② 無常に ③ 情けなく ④ 口惜しく

7 さしたる事なくて人のがり行くは、よからぬ事なり。(徒然草)

たいしたこともないのに「」行くのは、よくないことである。

① 人を頼って ② 人を避けて ③ 人と一緒に ④ 人のもとに

8 いくさといふ時は、ただ今もやうたれ給ふらむと心をつくす。(平家物語)

戦という時には、ちように今にも殺されなさっているのだろうか」と。

① あれこれ悩む ② 気を遣う ③ 心から祈る ④ 期待する

② 次の各文の傍線部の訳を答えなさい。(14点×2)

9 わざとめでたき冊子ども、硯の筥の蓋に入れておこせたり。(更級日記)

「」すばらしい冊子類を、硯箱の蓋に入れて送ってきた。

10 七珍万宝さながら、灰燼となりにき。(方丈記)

(火事で)あらゆる種類の宝物が「」灰と燃えがらになってしまった。

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

① 次の各文の傍線部の訳にあてはまる語句をそれぞれ選びなさい。(9点×8)

1 九月十三夜は名をえたる月なれども、其夜は都を思ひいづる涙に、我からくもりてさやかならず。

(平家物語)

九月の十三夜は有名な月であるが、その夜は都を思い出す涙のために、「

「曇って明るくない。

語訳 ①にわかに ②ぼんやりと ③自分のせいで ④私だけが

2 この人は、心と世を恨みたまひて、我いかで死なんといふことを、夜昼のたまひしに…(源氏物語)

この人は、「 」「世の中を恨みなさって、自分は何んとかして死にたいということを、夜も昼もおつしやったので…

語訳 ①自分の気質と ②自然と ③自分から進んで ④心から

3 汗もしとどになりて、我かの気色なり。(源氏物語)

(女君は)汗もびっしょりになって、「 」「様子である。

語訳 ①正気を失っている ②私を待つような ③分別のつかない ④かえって女らしい

4 同じほど、それより下臈の更衣たちはましてやすからず。(源氏物語)

(桐壺の更衣と)同じ身分、またはそれより低い身分の更衣たちはいっそう「 」「 」。①値打ちが低くはない ②心が穏やかでない ③気安くしてくれない ④簡単ではない

5 若の浦に潮満ち来れば渦をなみ葦辺をさして鶴鳴き渡る(万葉集)

若の浦に潮が満ちて来ると「 」「葦の生えている水辺をさして鶴が鳴いて渡る。

語訳 ①干潟がなくなるが ②干潟がなくなれば ③干潟がなくなっても ④干潟がなくなるので

6 人の子生みたるに、男女とく聞かまほし。(枕草子)

人が子どもを生んだときには、男か女か早く「 」。①聞くべきだ ②聞きたい ③聞かせてほしい ④聞けたらなあ

7 黒き雲にはかに出で来ぬ。風吹きぬべし。(土佐日記)

黒い雲が急に出てきた。「 」。①風が吹かないとよい ②きつと風も吹くはずだ ③たぶん風も吹いている ④きつと風が吹くだろう

8 むつかしく、またいさめむずらむ。(十訓抄)

うつとうしいことに、また忠告する「 」。①だろう ②かもしれない ③べきだ ④そつだ

② 次の各文の傍線部の訳を答えなさい。(14点×2)

9 さと光るもの、紙燭をさし出でたるかとあきれたり。(源氏物語)

ぱつと光るものが(あつて)、(女君は光源氏が)紙燭を差し出したのかと「 」。①

10 龍の頸に、五色の光ある玉あなり。(竹取物語)

龍の首に、五色の光を放つ玉が「 」。①

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

第21回

イラストシーンで
おぼえる
SCENE @古文単語 337
病氣・死・涙編 (P.262～P.272)

年 組 番

/100点

① 次の各文の傍線部の訳にあてはまる語句をそれぞれ選びなさい。(9点×8)

1 宇治殿御騎馬にて渡らせ給ふ間、倒れさせ給ひて心地違はせ給ふ。(宇治拾遺物語)

① 船長は、いつもの病氣がおこって、たいそう「」。
② 船長は、いつもの病氣がおこって、たいそう「」。
③ 船長は、いつもの病氣がおこって、たいそう「」。
④ 船長は、いつもの病氣がおこって、たいそう「」。

2 父にて候ひし者、勞る事侍りしかば、看病などして、…(沙石集)

① 父にて候ひし者が、「」。「」がございましたので、看病などして、…
② 父にて候ひし者が、「」。「」がございましたので、看病などして、…
③ 父にて候ひし者が、「」。「」がございましたので、看病などして、…
④ 父にて候ひし者が、「」。「」がございましたので、看病などして、…

3 重くわづらひたまへれど、ことなるなごり残らずおこたるさまに見えたまふ。(源氏物語)

① 重くわづらひたまへれど、ことなるなごり残らずおこたるさまに見えたまふ。
② 重くわづらひたまへれど、ことなるなごり残らずおこたるさまに見えたまふ。
③ 重くわづらひたまへれど、ことなるなごり残らずおこたるさまに見えたまふ。
④ 重くわづらひたまへれど、ことなるなごり残らずおこたるさまに見えたまふ。

4 故大納言身まかりて、今年は三十三年になりはべりしかば、形のごとく仏事など営みて、…(とはすがたり)

① 故大納言が「」。「」、今年は三十三年になりましたので、形どおりの仏事などを行って、…
② 故大納言が「」。「」、今年は三十三年になりましたので、形どおりの仏事などを行って、…
③ 故大納言が「」。「」、今年は三十三年になりましたので、形どおりの仏事などを行って、…
④ 故大納言が「」。「」、今年は三十三年になりましたので、形どおりの仏事などを行って、…

5 玉の緒よ絶えなば絶えながらへば忍ぶることの弱りもぞする(新古今和歌集)

① 玉の緒よ絶えなば絶えながらへば忍ぶることの弱りもぞする。
② 玉の緒よ絶えなば絶えながらへば忍ぶることの弱りもぞする。
③ 玉の緒よ絶えなば絶えながらへば忍ぶることの弱りもぞする。
④ 玉の緒よ絶えなば絶えながらへば忍ぶることの弱りもぞする。

6 窓つつ雨に袖ぬれて、例ならずわづらひ、…(御伽物語)

① 窓を打つ雨に袖ぬれて、「」で袖がぬれて、いつもと違って病氣になり、…
② 窓を打つ雨に袖ぬれて、「」で袖がぬれて、いつもと違って病氣になり、…
③ 窓を打つ雨に袖ぬれて、「」で袖がぬれて、いつもと違って病氣になり、…
④ 窓を打つ雨に袖ぬれて、「」で袖がぬれて、いつもと違って病氣になり、…

7 御袖もしほたるばかりになりましたまひぬ。(狭衣物語)

① 御袖は「」。「」ほどに(涙をお流しに)なりなされた。
② 御袖は「」。「」ほどに(涙をお流しに)なりなされた。
③ 御袖は「」。「」ほどに(涙をお流しに)なりなされた。
④ 御袖は「」。「」ほどに(涙をお流しに)なりなされた。

8 かかる仰せ言につけても、かきくらす乱り心地になん。(源氏物語)

① このような(帝の)お言葉を聞くにつけても、「」になった娘を思い出して「」「」取り乱した心境になる。
② このような(帝の)お言葉を聞くにつけても、「」になった娘を思い出して「」「」取り乱した心境になる。
③ このような(帝の)お言葉を聞くにつけても、「」になった娘を思い出して「」「」取り乱した心境になる。
④ このような(帝の)お言葉を聞くにつけても、「」になった娘を思い出して「」「」取り乱した心境になる。

② 次の各文の傍線部の訳を答えなさい。(14点×2)

9 船君、例の病おこりて、いたく悩む。(土佐日記)

① 船長は、いつもの病氣がおこって、たいそう「」。
② 船長は、いつもの病氣がおこって、たいそう「」。
③ 船長は、いつもの病氣がおこって、たいそう「」。
④ 船長は、いつもの病氣がおこって、たいそう「」。

10 君臣佐使の薬を施し奉れども、更に驗なし。(太平記)

① (殿に)君臣佐使の薬を施し奉れども、更に驗なし。(太平記)
② (殿に)君臣佐使の薬を施し奉れども、更に驗なし。(太平記)
③ (殿に)君臣佐使の薬を施し奉れども、更に驗なし。(太平記)
④ (殿に)君臣佐使の薬を施し奉れども、更に驗なし。(太平記)

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

① 次の各文の傍線部の訳にあてはまる語句をそれぞれ選びなさい。(9点×8)

1 むかし、惟喬の親王と申すみこおはしましけり。(伊勢物語)

昔、惟喬の親王と申しあげる親王が「」。

① いました ② いらつしやった ③ いた ④ いらつしやりなされた

2 仏は常にいませども 現ならぬであはれなる (梁塵秘抄)

仏は常に「」 「のだが お姿を拝することができないことが尊く思われる。

① いらつしやる ② いらつしやらない ③ お仕える ④ います

3 「誰々か侍る」と問ふこそをかしけれ。(枕草子)

「帝」の御前には「だれだが」「か」と(宮中の役人が)問うのがおもしろい。

① います ② いる ③ 伺候する ④ いらつしやる

4 「いとおもしろき烏毛虫こそ候へ」(堤中納言物語)

「あちらに」たいへんすばらしい毛虫が「」 「よ」

① いる ② おります ③ いらつしやる ④ 来ている

5 龍の頸の玉をえ取りざりしかばなむ、殿へもえ参らざりし。(竹取物語)

龍の頸の玉を取ることができなかったので、お屋敷へも「」 「ことができませんでした。

① おいでになる ② 参加する ③ 参詣する ④ 参上する

6 三、四の君、北の方などして、車一つして、忍びて清水にまうつ。(落窪物語)

三の君、四の君や、北の方などで、一台の車に相乗りして、お忍びで清水寺に「」。

① 詣でる ② いらつしやる ③ 参詣する ④ 参上する

7 花見にまかれりけるに、はやく散り過ぎにければ…(徒然草)

(私が)花見に「」 「ところ、とつくにすっかり散ってしまったので…

① 参りました ② 外出した ③ お誘いした ④ いらつしやった

8 おのおの禄たまはりてまかつるも、誰もなごり恋しう思ひのたまはず。(栄花物語)

各自ほうびをいただいで「」 「けれど、誰もが皆名残惜しくお思いになっておつしやる。

① うかがう ② いらつしやる ③ 退出する ④ いる

② 次の各文の傍線部の訳を答えなさい。(14点×2)

9 これを聞きて、かぐや姫、すこしあはれとおぼしけり。(竹取物語)

これを聞いて、かぐや姫は、少し気の毒だと「」 「た。

10 門を叩きて、「くらもちの皇子おはしたり」と告ぐ。(竹取物語)

(従者が)門を叩いて、「くらもちの皇子が」「た」と告げる。

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

第23回

イラストシーンで
おぼえる
@古文単語 337
敬語マスト32編(2)
(P.284～P.295)

名前

年

組

番

/100点

① 次の各文の傍線部の訳にあてはまる語句をそれぞれ選びなさい。(9点×8)

1 不死の薬壺に文具して御使に賜はす。(竹取物語)

(帝は) 不死の薬の壺に手紙をそえて御使いに「」。

① お与えになる ② 差しあげる ③ 与える ④ いただく

2 薬の壺に御文そへて参らす。(竹取物語)

(不死の) 薬が入った壺にお手紙をつけて(帝に)「」。

① 与える ② 参上する ③ 差しあげる ④ お与えになる

3 かぐや姫のたまふやうに遣はず作りいでつ。(竹取物語)

かぐや姫の「」通りに食ひ違うことなく(玉の枝を)作りだした。

① 言う ② 申しあげる ③ 注文する ④ おっしゃる

4 法皇は、「とき国へもながされ、はるか島へもつつされんするにや」と仰せけれども、

法皇は、「遠い国へでも流され、はるか遠くの島へでも移されるのであろうか」と「たけれども、…」

① 申しあげ ② おっしゃつ ③ 嘆かれ ④ おっしゃいなさつ

5 にははしきはたとへむ方なく、うつくしげなるを、世の人光る君と聞こゆ。(源氏物語)

つややかな美しさはたとえる方法もなく、かわいらしいので、世の中の人々は(その人を)光る君と「」。

① おっしゃる ② うわさする ③ お聞きする ④ 申しあげる

6 この皇子に申したまひし蓬萊の玉の枝を、一つの所あやまたず持ておはしませり。(竹取物語)

(かぐや姫が) この皇子に「」なされた蓬萊の玉の枝を、一つの所も間違わずに持っていらつしやつた。

① おっしゃい ② 申しつけ ③ 申しあげ ④ 言い

7 笑ひのしるを、上にも聞こしめして、わたりおはしましたり。(枕草子)

(女房たちが) 笑ひ大声で騒ぐのを、帝も「」。(中宮のお部屋に) 移っていらつしやつた。

① 聞きなさつて ② お聞きなされて ③ 聞き申しあげて ④ 耳に入れて

8 各々、仰せうけたまはりてまかりぬ。(竹取物語)

各自、御命令を「」出発した。

① 聞いて ② お引き受けして ③ 引き受けなさつて ④ 授かつて

② 次の各文の傍線部の訳を答えなさい。(14点×2)

9 六衛府の官人の禄ども、大将賜ふ。(源氏物語)

六衛府の役人たちのほうびは、大将が「」。

10 ゆかしくしたまふなる物をたてまつらむ。(更級日記)

見たいと思つていらつしやるとかいふのを「」。

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

第24回

イラストシーンで
おぼえる
@古文単語 337
敬語マスト32編(3)
(P.296～P.305)

名前

年

組

番

/100点

① 次の各文の傍線部の訳にあてはまる語句をそれぞれ選びなさい。(9点×8)

1 和歌などこそ、いとをかしくあそばししか。(大鏡)

(大納言は) 和歌などを、たいそう趣深く「」。

① 詠みなさった ② 詠み申しあげた ③ 遊びなさった ④ 奏上なさった

2 さる者ありとは、鎌倉殿までもしろしめされたるらんぞ。(平家物語)

そういう者がいるとは、鎌倉殿までも「」なざるだろうよ。

① お治めであり ② 存じ上げ ③ お治め ④ ご存じであり

3 布留の滝は、法皇の御覧じにおはしましけむこそめでたけれ。(枕草子)

布留の滝は、法皇が「」にお出ましになったそうなのがすばらしい。

① ご覧に入れ ② ご覧になり ③ お目に掛け ④ 拝見なさり

4 御菓物参りたまへど、殊に参らず。(うつほ物語)

(尚侍は皇子に) お菓子を差しあげなさるが、(皇子は) 特には「」ない。

① 召しあがら ② 参上なさら ③ いただかれ ④ いらつしやら

5 内へまゐりたまふとて、御車に奉りたまひければ、…(大鏡)

宮中へ参上なさるといふことで、お車に「」たところ、…

① お乗りなされ ② 乗り申しあげ ③ 乗りなさつ ④ 乗りまし

6 穢き所の物きこしめしたれば、御心地悪しからむものぞ。(竹取物語)

きたない所の物を「」ので、御気分が悪いだろうよ。

① いただいた ② 召しあがった ③ いただかれた ④ 食べました

7 子になりたまふべき人なめり。(竹取物語)

(私の) 子になり「」はずの人であるようだ。

① きる ② ます ③ なさる ④ 申しあげる

8 山中のほどにて、絶え入らせおはします。(保元物語)

(崇徳院は) 山中のあたりで、気を失つ「」。

① てていたします ② ておしまいになる ③ てございます ④ ていらつしやる

② 次の各文の傍線部の訳を答えなさい。(14点×2)

9 童を召して、ありさまくはしく問はせたまふ。(堤中納言物語)

(頭中将は) 子どもの召し使いを「」 「て、様子をくわしくお聞きになる。

10 親王おぼとのいもで明かしたまつてけり。(伊勢物語)

親王は「」 「ないで夜を明かしておしまいになった。

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

1 次の各文の傍線部の訳にあてはまる語句をそれぞれ選びなさい。(9点×8)

1 かぐや姫をやしなひたてまつること二十余年になりぬ。(竹取物語)

かぐや姫を養育」「ことは二十余年になった。

選取版

①する ②なざる ③します ④し申しあげる

1

2 宮もおはしますを見まゐらすればいと若うつつくしげにて、多くの人にすぐれたまへり。(和泉式部日記)

宮も(その中に)いらつしやるのを」「と、たいそう若々しく美しい様子で、多くの人の中ですぐれなかつていた。

選取版

①見申しあげる ②ご覧になる ③見ます ④見ていらつしやる

2

3 世にもいと心憂き世に思ひきこえさす。(栄花物語)

世間でもたいへんつらいことだと」「。

選取版

①思つて申しあげる ②お思いになる ③お思いする ④思い聞きなざる

3

4 「親のおきてに違へりと思ひ嘆きて、心ゆかぬやうになむ聞きたまふる」(源氏物語)

「親の意向にそむいたと思ひ嘆いて、心が晴れない様子だと(私は)」「」

選取版

①うわさで聞いている ②お聞きなざる ③聞いています ④聞こえている

4

5 大将の君、蔵人して上によろこび奏せさせたまふ。(うつほ物語)

大将の君は、蔵人を遣わして」「にお礼を申しあげさせなざる。

選取版

①奥方 ②天皇 ③北の方 ④上部

5

6 わざとの御学問はさるものにて、琴笛の音にも雲居をひびかし、…(源氏物語)

(光源氏は)本格的な漢学の学問は言うまでもなく、琴や笛の音色にも」「に評判を立てさせ、…

選取版

①国中 ②はるか遠く ③宮中 ④女房たち

6

7 いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり。(源氏物語)

それほど高貴な家柄ではない方で、特に(帝の)」「なざる(お方が)あつた。

選取版

①寵愛を受け ②高い評価を得 ③心がときめき ④権力を支え

7

8 宮は、白き御衣ごにも、紅の唐綾をぞ上に奉りたる。(枕草子)

「は、白いお召物幾枚もに、紅の唐綾をその上にお召しになっている。

選取版

①帝 ②院 ③神官 ④中宮

8

2 次の各文の傍線部の訳を答えなさい。(14点×2)

9 「かの白く咲けるをなむ、夕顔と申しはべる」(源氏物語)

「あの白く咲いている(花)を、夕顔と」「」

選取版

9

10 女、内の曹司にすみける時、しのびて通ひたまふ人ありけり。(大和物語)

女が、「」の曹司に住んでいた時、人目を避けて通いなざる人がいた。

選取版

10